

人類愛が生んだユニークなモニュメント

八面山平和公園



箭山平和音頭

一、春はあけぼの 箭山^{ややま}の嶺^{みね}に

平和桜も うす紅^{べに}刷^はいて

深山^{やま}の聖地に おぼろの雨が

田口乙女の 肩に 肩に降る

二、月の光が くまなく照らす

平和の里に 鐘が鳴る

胸もこがるる お百度詣り

虫は芒^{すすき}の 蔭^{かげ}に 蔭^{かげ}に鳴く

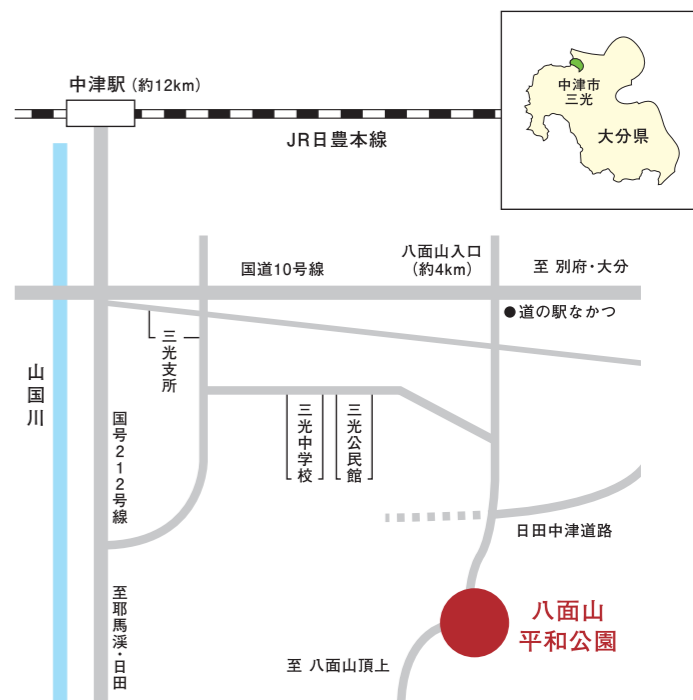
三、枝もたわわに 黄金^{こがね}のみかん

平和の塔に 稲穂の波に

鳥も啼^なげ啼^なげ 国境越えて

永久^{とわ}に遠くの 雲を 雲を呼ぶ

作詞 へいはた さとこ
作曲 ロイ・大竹



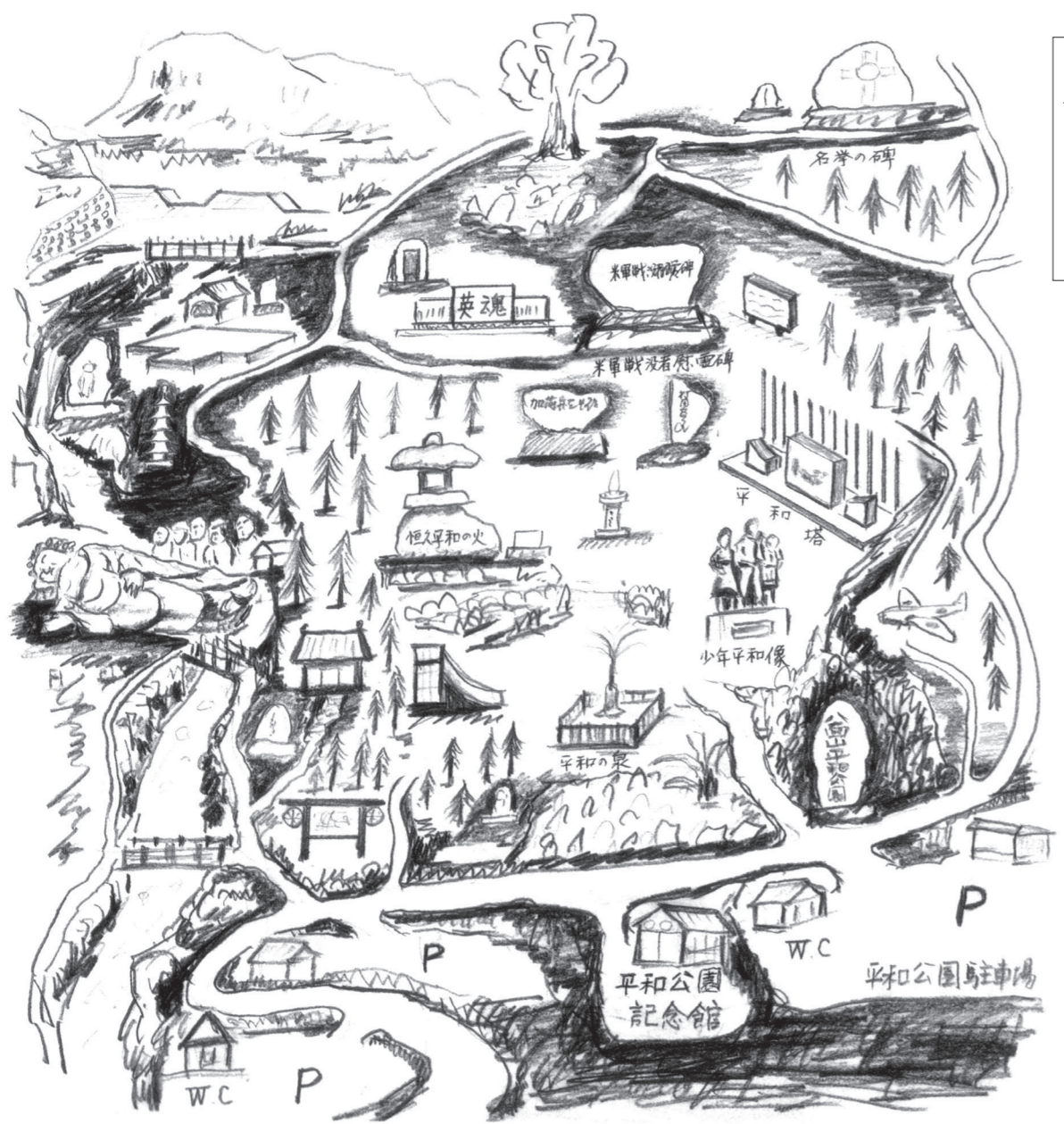
- 発行日／2018.5.3
- 発行者／八面山平和公園記念誌作成委員会
- 連絡先／〒871-0103 大分県中津市三光田口
楠木正一方 TEL 0979-43-2406
- 印刷／(株)ADP 中津市永添2636-24

Mt.hachimen Peace Monument





平和公園案内図



西日本一の涅槃像



恒久平和の火



英魂の碑



名誉の碑



平和公園記念館



平和の泉



世界少年平和像



B29の模型

表紙／世界少年平和像

東洋人、白人、黒人の少年少女が手をつないで
世界平和を祈念する等身大のブロンズ像。
製作者は愛媛県八幡浜市の塩崎宇宙氏。平和
やわたはま しおさきうちゆう
公園創設以来十年間、心の中であたため続けて
一九八一年に完成した力作。製作費は無料奉仕。
塩崎氏は東京芸大卒で、代表的作品には大阪
城金鯱、中江藤樹像、野口英世像、グリーンラン
ドの植村直己のレリーフ等がある。



西日本一の涅槃像(7.88m)



米軍戦死者11名の碑銘

されたもので、一九七二年五月、長さ七・八メートルの当時西日本一の涅槃像が完成した。

また、地元の楠木正義氏は自身の戦争体験から、他国で悲壮な戦死を遂げた仲間の兵士のことや、この八面山で死んだ米兵の無念さに思いを重ね、この八面山に散った兵士の慰霊と平和への祈りを込めた平和公園の建設を思い立った。地元田口地区の人々もその思いに大いに賛同し協力して建設に着手することになる。こうして一九六九年二月、慰霊碑建立委員会が設置され各界に協力を呼びかけた。

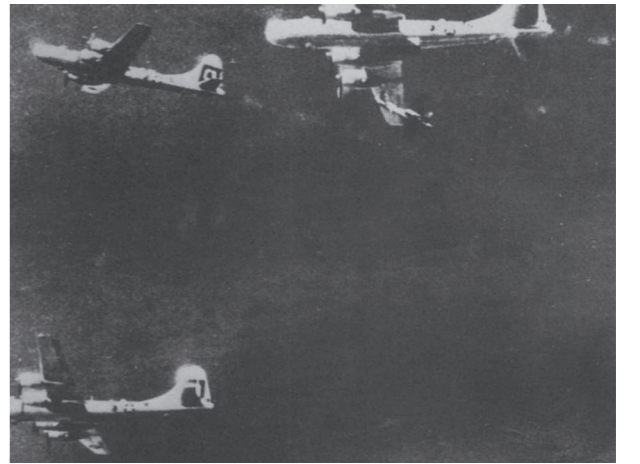
キリスト教中津扇城教会の柴田勝正牧師は、「英文毎日」にこのことを投稿し、国の内外に大きな反響を巻き起こした。

別府市の養護施設

「光の園・白菊寮」の長田シゲ園長は、園児にこのことを話したところ、園児たちは一円や五円、十円玉を持ち寄り計二一九七円をビニール袋に入れて園長に出した。園長は「子どもたちがいつまでも純真な心を持ち続けられ



村田曹長出撃時の双発戦闘機とその勇姿(○印が村田曹長)



日本上空でB29に体当たり(右翼)した日本戦闘機(B29戦友の会より贈られたもの)

◆平和公園の沿革

一九四五年五月七日午前十時二十分、十一機編隊の米軍機B29が八面山上空にさしかかった時、八面山の背後から現れた一機の日本軍戦闘機(屠竜)が、編隊の先頭機に体当たりした。日本軍戦闘機は三保村洞の上(現中津市洞の上)に墜落し、搭乗していた村田勉曹長(二十七歳)は、壮烈な戦死を遂げた。一方体当たりされた米軍機は、火を噴きながら八面山(六五九メートル)の三合目に墜落し、搭乗員十一名中八名は戦死、三名は落下傘で降下したがその後死亡した。

また、同年終戦直前の八月十二日午後三時頃、



加藤茂兵曹長



村田勉曹長

◆善意の結集

八面山に散った、これら日米両軍の英霊を弔うため、山口村役場は米軍機の墜落現場に慰霊柱を建立した。この慰霊柱は時日を経るに従い、雑草の生い茂るままに朽ち果て、顧みる者もなくなった。

一九五〇年頃、東耶馬溪村(現本耶馬溪町)の山本草堂氏(元三余女学校校長故人)が慰霊柱を建て直し、ここに慰霊碑を建立しようと浄財を集めるため喜捨を求めて村々を回っていたが、実現をみないで死亡した。

一九六六年、八面山神護寺住職・篠原覚瑞師が、「巨石に寝釈迦を刻むことによつて、これを持つひとびとに仏陀の涅槃に入り給うたときの遺訓をしのばせたい。そして、八面山に眠る日米軍人十三柱の霊を慰め、世界の平和に寄与したい。」と、慰霊柱から二百メートル離れた同寺境内の巨石に、釈迦涅槃像の彫刻を発願した。涅槃像は福岡市の仏師国広石峰・秀峰父子の手によって製作

地球上から戦争はなくなるでしょう」といってこの浄財を送金してきた。

その他、富山県の臨済宗国泰禅寺、京都の建仁寺、オーストラリアのイーガイさん、米国の平原武丸氏など多方面から浄財が寄せられた。また、中津のガール・スカウトは街頭募金を、中津青年会議所(JCI)は米軍横須賀軍楽隊を招いてチャリティーショーを開催し、その益金を日本駐留の米軍将校団は、日本の田舎で所有する木製の火鉢を買い集め、米国向けの土産品として販売し、その益金を寄付してきた。

一方建設に当たっては、中津市の大川晴美氏は資材を、地元の人々は労働力を提供した。このような善意の結集により、慰霊碑・慰霊塔が建立されるに至った。

当時の大分県知事木下郁氏は、「この事業は豊臣時代以来の快挙といつてよく、約四百年前薩摩藩主島津義弘・忠恒父子が高野山に『敵味方供養塔』を建て、日本人と朝鮮人四二〇名の戦没者を弔った赤十字精神に通ずるもの」と絶賛し、県費負担で三光村役場から現場まで約七キロメートルの道路を舗装し、洋式水洗トイレ付きの駐車場も設置した。

1971年1月7日

日本国大分県知事 木下 郁 殿

拝啓 大分県知事 木下 郁 殿

八面山平和記念碑の建設につきましては、御助言を戴きまして誠にありがとうございました。

私は、我国の軍事補佐官に板付航空基地の幹事議会と連絡をとって、記念碑の設計の計画に協力するようお願いしました。大変申し訳ございませんが、1971年5月7日の記念式典に出席できませんので、よろしく願い申し上げます。私と家内は、常々美しい日本の国を御訪問したいと存じています。きつといつか実現できると思っています。しかしながら公務のため、辞退しなければなりません。大変残念でなりません。

すばらしい式典に御招待下さいまして、誠に有難うございました。重ねてお礼を申し上げます。

ロナルド・レーガン

January 7, 1971

The Honorable Kaoru Kinoshita
Governor of Oita Prefecture
1-1, 3-chome, Oita-machi, Oita
Oita Prefecture, JAPAN

Dear Governor Kinoshita:

Thank you very much for advising me of the construction of a peace monument to be built on Mount Hachimen.

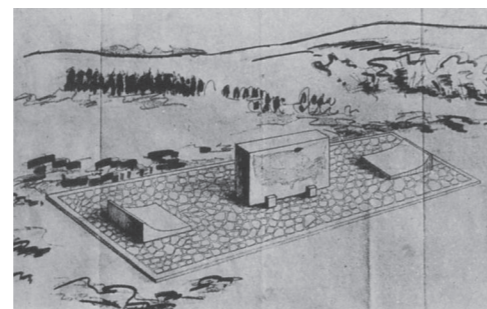
I have asked my Military Assistant to make contact with the Junior Officer Council, Itazuke Air Base and cooperate in their program to design the Peace Monument.

I am sorry that I will be unable to attend the memorial ceremony on May 7, 1971. Mrs. Reagan and I have always hoped to be able to visit your beautiful country and this would have been an ideal occasion, but because of legislative business at that time, I regrettably must decline.

Again, thank you very much for your kind and gracious invitation to join with you in this noteworthy project.

Sincerely,

Ronald Reagan



平和塔設計見取図

Airman's Name

2d Lt John Y. Lambert
Sgt William E. Beckman
TSgt Vernon L. Galyardt
1st Lt James W. Mckillip
2d Lt Norman S. Siegel
SSgt Lewis C. Balsler, Jr
2d Lt Harley Hammerman
TSgt Edgar L. McElfresh
SSgt Albert A. Yokubonis
Sgt Ralph S. Romines
Sgt Otto W. Baumgarten

Home State

California
Kansas
Colorado
Illinois
Massachusetts
Missouri
Ohio
Pennsylvania
Tennessee
Wisconsin

Gvernor

Ronald Reagan
John A. Love
John Calin
Richard B. Ogilvie
Francis E. Sargent
Warren E. Hearnes
John J. Gilligan
Milton J. Shapp
Winfield Dunn
Parrick J. Lucey



米軍戦没者慰霊碑前の木下知事とオウニー司令官(70.5.7)



村田曹長慰霊碑



加藤兵曹長慰霊碑

- 米軍戦没者慰霊碑
自然石、高さ一・五四m、巾二・四五m
前面に木下郁大分県知事と、
板付米空軍司令官オウニー大佐の揮毫。
- 村田曹長之碑
自然石、高さ一・五m、巾〇・四m
- 加藤兵曹長之碑
自然石、高さ〇・九m、巾一・四m

◆ 慰霊碑の竣工

一九七〇年五月七日、大分県知事木下郁氏、板付米空軍司令官オウニー大佐(米国)初め、日米両国民約六〇〇名が参加して竣工式を挙行。五月十八日には、米第七艦隊司令長官ウィズナー中將が参拝した。

白亜館 D・C 特信
 スタンダーファー・ハワード・D 殿
 八面山平和公園平和塔米国発起人
 3055西南ジュニパー街
 タコマ市 ワシントン州 98439

今回、八面山平和塔年次記念祭挙行にあたり、私のご出席の皆様は哀心より敬意を表するものである。

日米戦没者のために建てられたこの美しい碑は、世界に恒久平和の平和時代をきづくべき吾々の重大な責任を常に暗示するものである。

この世界平和は、環境の異なる世界各国の人々が共存共栄の精神を習得してこそ、初めて達成される。故に日米両国市民によって実現されたこの慰霊碑は、吾々が平和への偉大な目的に到達しつつある称讃すべき実跡である。

皆様のご多幸を心から念願してやまない。

北米合衆国副大統領
 アグニュー・スピロー・T

06097 GOVT NL THEWHITEHOUSE DC 64
 05-04 456P EDT
 PMS MR HOWARD D STANDERFER, DLR,
 DLR, DONT DWR REPT.
 DLT SNR SPVR AMRRICAN COORIDINATOR
 MOUNT HACHIMEN PEACE MONUMENT
 3055 JUNIPER STREET SOUTHWEST
 TACOMA WA 90439
 PLEASE CONVEY MY WARM GREETINGS TO
 ALL ATTENDING AND PARTICIPATING IN
 THE ANNUAL CEREMONY
 COMMEMORATING THE MOUNT HACHIMEN
 PEACEMONUMENT.

THIS BEAUTIFUL MONUMENT TO FALLEN
 AMERICAN AND JAPANESE SERVICEMEN IS
 A CONTINUAL REMINDER OF THE
 IMPORTANCE OF THE EFFORTS WHICH WE
 MUST ALL UNDERTAKE TO BRING ABOUT
 AN ERA OF WORLD PEACE.

THIS ERA WILL COME ABOUT ONLY WHEN
 THE PEOPLES OF THE WORLD LEARN TO
 LIVE TOGETHER IN HARMONY DESPITE
 THEIR DIFERENCES, AND THIS MONUMENT
 WHICH BECAME A REALITY THROUGH
 AMERICAN AND JAPANESE EFFORTS A
 REALITY THROUGH AMERICAN AND
 JAPANESE EFFORTS IS CERTAINLY A
 LAUDABLE STEP FORWARD OUR GREAT
 GOAL.
 BEST WISHES SINCERELY

SPIRO T AGNEW



祝 砲



平和塔除幕式



州知事から贈られた石を
 受取る清源委員長

◆平和塔の竣工

一九七一年五月七日、東京府中基地ルイス・コーラ空将、板付基地ラブレ司司令官、ジェームス・アシダ福岡米領事館首席領事、防衛庁・上原康弘空将、大分県知事・木下郁氏を初め、一五〇〇名が参加して「平和塔」の竣工式が挙行された。

「平和塔」は山口県産黒花崗岩に米国地図を描き、八面山に散華した十一人の米軍兵士の出身州産の石十個をそれぞれの州に型取り嵌め込む。(十一人のうち二人は同一州出身)裏に十一人の氏名と出身州、州知事名を彫刻。平和塔は、高さ一・六呎、巾二・一呎、厚さ〇・四呎。

「脇塔」は向かって右に村田曹長出身の島根県章と県花(牡丹)を、左に加藤兵曹長出身の福島県章と県花(石南花)を、それぞれ出身県産の石に刻み、山口県産の黒花崗岩に嵌め込む。高さ〇・六呎、巾一呎、奥行〇・八呎。設計は南九州大学講師・脇百太郎氏(現在大分大学・大分高専講師)



福島県花石楠花の脇塔



平和塔



島根県花牡丹の脇塔



平和塔全景



八面山平和公園全景

◆八面山平和塔献納式挨拶

米国政府と米国民を代表して、八面山平和塔の建立に尽された皆様を心から賞賛申し上げます。日米両国民の共同作業に示されている様に、此の平和塔は、第二次世界大戦後、日米関係の特長となつて来ている相互協力と相互理解の精神をあらわすに大変ふさわしいシンボルである、と存じます。この善意の精神が末永く日米親善の「きずな」を益々強める様、心から願ひ、お祈り申し上げます。

昭和四十六年五月七日 在福岡米領事館首席領事
 ジェームス・H・芹田

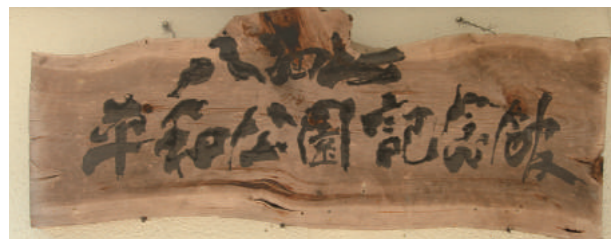
◆八面山平和公園記念館
この記念館は、一九七二年、日本駐留米軍将校団が近隣より集めた木製火鉢を土産品として販売した代金や、八面山平和公園のパンフレットを販売した収益金等で建設したが、手狭になったので、一九七八年改築されたものである。木造平屋建瓦葺、建坪十八坪。



平和公園記念館正面



平和公園記念館(内観)



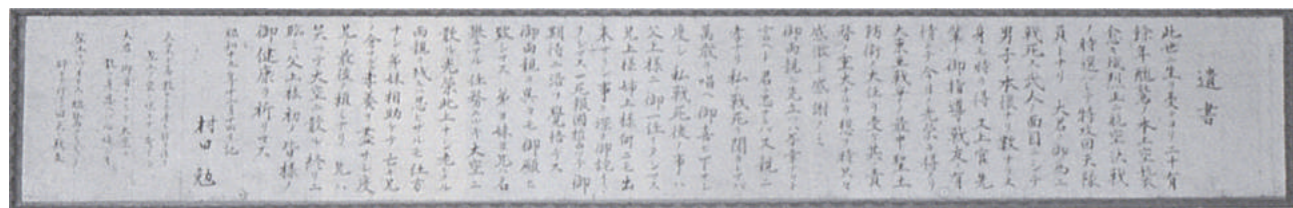
梅本雲山人書



墜落したB29搭乗員の写真と出身州の州旗



平和公園記念館(内観)



村田曹長遺書

この標柱は一九五〇年、山本草堂氏が八面山で散華した米軍兵士の霊を慰めるために建てた慰霊柱である。慰霊柱につけられた数カ所の傷痕が当時の世相をしのばせる。



英魂の碑



山本草堂翁碑



名誉の碑

◆英魂の碑

日清日露戦争以降の戦没者の合同慰霊碑で、一九七二年に建立。両側に祭祀してある山口校区の戦没者七五名の氏名を彫刻。高さ一・三メートル、巾四・二メートル。「英魂」の文字は本耶馬溪町の書家梅本雲山人の揮毫。

◆名誉の碑

一九七六年、大分市長 上田保氏の発想で製作されたもので、この八面山上空で散った日米両軍兵士の慰霊碑である。日米両国旗を地球に描き、「われらここに死す」と彫刻した十字架と共に自然石にはめこんである。高さ二・〇メートル、巾二・五メートル。

建設地は米機墜落地点で、米兵を埋葬してあったところでもある。「名誉の碑」の文字は遠入たつみ氏の揮毫。

◆山本草堂翁碑

東耶馬溪村の山本草堂氏は、米軍機が墜落したここに墓標を建て直したが、さらに慰霊碑を建設しようと喜捨を求めて一人で村々を回った。しかし実現できずに一九五〇年、七八歳で死亡した。この山本翁の善意を記念して一九九一年、山本草堂翁碑が建立された。



恒久平和の火



分火した原爆の火を子供に渡す星野村高木村長

◆恒久平和の火

福岡県八女郡星野村では、山本達雄氏が広島より持ち帰った「原爆の火」が「平和の火」として燃え続けている。八面山平和公園平和祭実行委員会では、一九八七年よりこの火を採火させていただき、新日鉄陸上部・三光陸協・起山会他、平和を願う多くの人々によってリレーし、ここ八面山の聖火台に点火して平和祭を行ってきた。

ところが一九九三年、星野村のご厚意により、この火が八面山平和公園に分火されることになり、「恒久平和の火」として八面山でも燃え続けるようになったものである。「恒久平和の塔」は高さ三・三メートルの自然石の灯籠で、火袋は黒い花崗岩、「恒久平和の火」の文字は、真言宗高野山金剛峰寺管長・崇峯大僧正の揮毫である。こうして、八面山の上空で亡くなった人たちを敵味方の区別なく供養したいという地元の人たちのひたむきな思いと、多くの私たちの平和への熱い願いは、しだいに共感を呼びながら、その意義をより確かなものにしつつ、より多くの人に平和の尊さを訴えながら、「恒久平和の火」として八面山において永遠に燃え続けることになったのである。



一九四五・五・七	八面山上空でB29爆撃機へ日本の戦闘機が体当たりして両機とも墜落。 日本機搭乗員一名、B29搭乗員十一名中八名戦死、残り三人も後日死亡。
八・一二	八面山上空で日本軍戦闘機一機と米軍戦闘機四機が 空中戦を行い日本軍機が墜落。
一九四六・二〇	山口村役場、米軍戦死者の慰霊柱を建てる。
一〇	板村米軍基地よりリオ・トリッマン少佐来村、 八名の遺骨を持ち帰る。
一九五〇	山本草堂氏、米軍戦死者慰霊柱を建てなおし、 慰霊碑建設資金の喜捨をしていたが七八歳で死亡。
一九六三	神護寺住職篠原覚瑞和尚、涅槃像彫刻を発願する。
一九六六	日米戦没者慰霊碑建設委員会を設立。
一九七〇	福岡仏師国広石峰・秀峰父子により、 西日本一の涅槃像完成(四五〇万円)。 日米戦没者慰霊碑を建立
五・七	(石工・中山長雄氏、造園・武下實氏、協力者八九二名、一二八万円)。 第一回日米戦没者慰霊祭を二五年目の命日に行う。
五・七	大分県知事木下郁氏より日米戦没者慰霊碑建立の功績で表彰される。
五・七	米軍板付基地司令官オーニー氏より 日米戦没者慰霊碑建立の功績で表彰される。
五・一八	米第七艦隊司令長官ウイズナー中将慰霊碑に参拝。
一九七一・一・七	ロナルド・レーガン氏より来信。

一九七二・一・四	木下郁大分県知事、三光村役場より平和公園まで約7kmを 県費で塗装、洋式水洗トイレ駐車を設置。 戦没米兵出身各州より州産の石と州旗の 寄贈を受け、平和塔を建立。(設計・脇百太郎氏、 石工・中山長雄氏、協力者・上田保氏外、二七三万円)。
一一・三	下毛郡町村長会長・相良補三郎氏より世界平和と 人の幸福に寄与した功績で表彰される。
一九七二・五・七	八面山平和公園記念館建設(日本古火鉢販売代等、四三万円)。
一九七三・一・二五	アメリカ副大統領アグニュー・スピロー・T氏よりメッセージ。 中津ライオンズクラブ「憩の森」建設(五〇万円)。
五・三	英魂碑建立(戦没者家族七〇万円、石工・松垣芳一氏)。 アメリカ副大統領アグニュー・スピロー・T氏より、日米両国民による 「日米軍戦没者慰霊碑」世界平和塔建設の功績で表彰される。
五・七	三光村長・西米時郎氏より、八面山平和公園建設、 観光開発の推進につくした功績で表彰される。
一九七四・一・二三	平和公園整備。(村補助金三〇万円)
一九七六・五・三	名譽の碑建立(清源敏孝氏寄贈、石工・松垣芳一氏)。 F86ジェット戦闘機を中津ライオンズクラブ・ 川原田氏の協力で設置(村補助金一五万円)
一九七七・一〇・五	大阪市文化財指定・野田藤(故牧野富太郎氏名付)を 中津ライオンズクラブより寄贈される。
五・七	福岡県八女郡星野村より「原爆の火」を新日鐵陸上部・三光陸協・ 起山会外によってリレーし、「平和の火」を灯して平和祭を行う。
一九八七・五・三	平和公園駐車場設置(二六〇万円)。 県民生協折鶴三万羽を少年平和像に捧げ、世界平和を祈念する。 以後毎年三万羽の折鶴を捧げ祈念祭を行う。 中津下毛地方振興局長・亀井敏夫氏の協力で公衆トイレを駐車場に 新設(県村費六〇〇万円)。
一九八九・八・九	聖火台を三光村傷夷軍人会・同妻の会より寄贈される。 第一回八面山平和マラソンが開催される。 駐車場入口塗装(村費二三万円)。
一九九一・五・四	F86ジェット戦闘機の修理・塗装(村費二五万円)。 「恒久平和の塔」建設並びに公園整備・炭焼窯の建設 (総額七六五万円、協力者一〇五〇名、塔建設並びに造園・渡辺賢一氏)。
一九九二・一〇	福岡県星野村より「原爆の火」を分火され 「恒久平和の火」として点火する。元火は神護寺の香灯で保存。 ホワイトハウス大統領元補佐官・ウイリアム・エス・ブッシュ氏来園。 名譽の碑・慰霊碑参拝。
一九九三・一一・二〇	八面山平和公園平和祭二五周年記念式典を行う。
一九九四・五・三	社会を明るくする運動中津下毛実施委員会長・鈴木一郎氏より、 社会を明るくする運動に貢献した功績で表彰される。
七・九	八面山平和公園の冊子を発行。
一九九五・五・三	八面山平和公園記念誌を発行。
二〇一八・五・三	

一九七七・一一・三	大分県知事・立木勝氏より、世界平和と 国際親善につくされた功績で表彰される。 慰霊祭を「八面山平和公園平和祭」と改称。
一九七八・五・七	八面山平和公園記念館を改築(二二五万円、内村補助金二〇万円)。 箭山平和音頭・作詞・弊旗さと子、作曲・ロイ大竹、 弊旗さと子氏より一〇〇万円寄贈される。 米国防務総領事首席領事デビット・A・パブスト氏より、 世界平和と国際親善につくした功績で表彰される。 三光村長・河野清氏より、八面山平和公園の管理・改善並びに 八面山観光事業につくした功績で表彰される。
一〇・九	米国防務総領事首席領事デビット・A・パブスト氏より、 B29戦没者二一名の身元証明並びに写真が届く。 世界少年平和像建立、製作者・塩崎宇宙氏 (製作費は塩崎氏無料奉仕、ほか工事費七一四万円、 うち、村補助金四〇万円、協力者六〇二名)。 アメリカ大統領・ロナルド・レーガン氏へ平和祭の招待状発送。
一九八三・七・五	「平和の泉」改造、幣旗さと子氏より一〇〇万円寄贈される。
一九八四・四・二九	大分県観光協会会長・小野浩氏より、 大分県観光発展に貢献した功績で表彰される。
一九八五・六・一八	八面山平和公園平和祭の期日を五月三日に変更。
一九八六・五・三	

一九八七・五・三	
一九八九・八・九	
一九九〇・五・三	
五・三	
一九九一・五・四	
一九九二・一〇	
一〇・五	
一九九三・五・三	
五・三	
一九九三・一一・二〇	
一九九四・五・三	
七・九	
一九九五・五・三	
二〇一八・五・三	



八面山 大池

八面山はふるさとの山

ふるさとの山「八面山」を、いつも見つめてきたわたしたちは、この八面山をさらに見つめ直し、八面山の素晴らしさをもっともっと伝えつづけていかなければならないのではないのでしょうか。

◆大池と小池

「山上に二個の御池あり、共に寒色一碧深淺測るべからず」……『下毛郡誌』より……

三光地区に暮らす人ならあの八面山に「大池」と「小池」という二つの池があることを知っている人は多い。大池は自動車道から二十分程のところであり、池を周回することもできるし、写真のようにこの展望所からは、大池のむこうに英彦山・小屋岳・犬ヶ岳・経読岳・求菩提山が遠望できる。小池には車を降りてから徒歩で5〜6分着く。標高六百メートルをこす八面山の頂上台地にこんな美しい池が二つもあることを私たちは誇りたい。

大池の『悲しい歴史』

昭和六年の夏、降り続く長雨に里人のあいだでは「大池の土手がくゆる(崩れる)かもしれん。」というはなしでもちきりだった。そして七月二十一日未明、ついに大池の土手は決壊した。大音響とともに流出した大池の水は土石流となって金色川を一気に流れ下り、流れのなかでぶつかり合う岩石は火花を散らすほどで濁流は谷をのみこんでいった。被災



家屋二十数棟、山林・田畑の被害は七十五ヘクタール、そして死者七名・重軽傷者多数という大惨事となった。
しかし地区の人たちの復興への取り組みは早く、翌昭和七年には復旧工事に着手した。ただあの八面山の頂上部の池に大規模な土手を改築するという工事は困難を極め二人の若者が犠牲になった。昭和十三年三月、大池の土手は見事に完成する。現在大池の土手の長さは百五十二メートル、大池の広さは四ヘクタールもあり、麓の二十六ヘクタールの田んぼの水利をまかなっている。

大池秘話『龍の珠』

天明三年(一七八五年)から始まった日照り続きの大飢饉は、豊前中津地方でも三年目に入ろうとしていた。村々の小さな川はもちろんのこと山国川さえも川底をみせるところがあるほどで、人々はなす術もなくただただ天をあおいで嘆くばかりであった。中津の自性寺の海門和尚は、人々の苦しむさまをみてなんとかせねばと決心し、自ら厳しい「雨乞いの行」を行うことになる。そして和尚がこの行の場を選んだのが八面山の池だった。大池の辺に設けた「雨乞いの座」にただ一人籠ると、一切の飲食を断ち、ひたすら経を唱え、雨を祈り続けたのである。



海門和尚

七日七夜続けられた雨乞い祈願がその満願を迎えた日、急に一陣の風が巻き起こり大池の水が激しく波立つと、顔は女、身体は龍の姿をした龍女が現れ、「今、天に雨雲はなくいくら雨乞いをしても無駄でしょう。しかし和尚が私の「珠」を受け、私を成仏させてくれるなら、一命をなげうってでも雨を降らせて見せましょう。」という。和尚は「必ずやあなたを成仏させてあげましょう。どうか雨を降らせてください。」と日照りに喘ぐ人々の苦しみを説いたのである。

龍女が姿を消してほどなく、空はかき曇り山は鳴り谷に響きわたるほどの激しい雨が降り始めたのである。雨は五日間にわたって降り続き、からからに干上がっていた田も畑も生き生きと蘇った。里人たちは精一杯のもてなしで海門和尚の行を称えたのである。参勤交代で江戸詰であった中津藩主の奥平昌男公が、国元のこの喜びを聞き、海門和尚に「歌をしたためた書状」を送ったという。そして、和尚が龍女から受けたあの「龍の珠」は今も自性寺に伝えられている。

海門和尚が雨乞いの場としてなぜ八面山頂上の大池を選んだのか、和尚の思いに心を馳せてみたいものである。

◆八面山は修験道の山

『修験道』という言葉は誰でも聞いたことはあるが、どのようなものか知る機会は少ない。「役小角を祖と仰ぐ日本仏教の一派。日本古来の山岳信仰に基づくもので、もともと山中の修行による呪力の獲得を目的としたが、後世の教義では自然との一体化による即身成仏を重視する。」(広辞苑)とある。

全国に修験の山と言われる山は何カ所もあるが、実は八面山もその修験の霊場とされている。

和与石と如意宝珠の約束

衆生済度の願いをもつて唐土から帰国した八幡大菩薩が翁の姿になって英彦山権現に、一切の衆生を救うことができる「如意宝珠」をいただきたくと願い出る。このことを聞いた英彦山で修行中の法蓮聖人は、私も権現の如意宝珠はまだ見たことが無いという。こうして翁と法蓮聖人とのあいだにこの宝珠をめぐるやり取りがあるが、「私はこの宝珠を得て一切の生きとし生けるものを救いたいと念じている。」

どうか同じ心で天下を静護しようではないか。」という八幡大菩薩の言葉に、法蓮聖人も納得し“和与(和解)”が成立したのである。二人の話し合いの場になった諫山郷の高山というのが八面山のこと、話し合いが行われた大きな岩こそがこの「和与石」なのである。

この物語に登場する法蓮聖人は、八幡大菩薩との約束により宇佐神宮の初代別当に任命されたとされているが、実は日本の歴史の正史『続日本紀』にも記載されている実在した人物である。法蓮は九州山岳修験の中核ともいえる英彦山を中心に活躍し、豊前地方の「諸縁起」には必ずといっていいほど登場する人物なのである。

八面山修験と峰入り

修験者は山に伏し野に伏しながら厳しい修行をするところから「山伏」とも呼ばれるが、その修験者に最も重要な行は入峰修行(峰入り)と言わ



和与石

れる。八面山でもこの「峰入り行」が行われていた。三光田口の樺木家に伝わる「八面山峯入巡拝次第記(仮称)」には、箭山神社を出発してから八日間にあたり八面山を一周する峰入り行のことがかなり詳しく記録されている。そして、この峰入り行のなかで、五穀豊饒と諸病除けの祈禱をする修験者たちと修験者を迎える村人たちとの繋がりがあったかく綴られている。



八所神社(浪立宮)



長谷の白山神社

◆和気清麻呂伝説から

猪山八幡神社

時は奈良時代。称徳天皇の信頼をほしいままにして絶大な権力をふるっていた弓削道鏡は太政大臣禪師、ついで法王となるなど位人臣を極め、ついには宇佐八幡の神託と称して皇位の継承を企てたのである。そこで称徳女帝の命を受けて宇佐八幡の神意

を確かめるために派遣されたのが和気清麻呂であった。清麻呂は早速宇佐八幡宮にお参りし、皇統の在り方を一心に祈った。そして出された宇佐八幡の託宣は、『我が国は開闢以来、君臣の分定まれり、臣をもって君となすこと未だこれあらず、天つ日嗣(皇位)は必ず皇儲を立て無道の人を掃除すべし』というものだった。

清麻呂は京に帰り、宇佐八幡の託宣をそのまま伝えたのである。これを聞いた道鏡は大いに怒り、清麻呂の官位を奪い名前を別部磯麻呂と改め膝の筋を切り大隅の国(鹿児島)へ罪人として流した。清麻呂が大隅に行く途中、再度宇佐神宮に立ち寄り、豊前の国の加来村黒水辺りに来たとき足が萎え歩行が困難になってしまった。これを見た村人は地元で取れた黒豆を食べさせ療養させたという。このとき、命をねらう刺客が近づいてきたと言う知らせを受けた清麻呂が動くことができずに困っていると、突然、箭山の方から猪三〇〇頭が現れて、清麻呂を背に乗せて宇佐八幡まで十里の道を駆け抜けて難を救ったという。

この清麻呂を助けた猪の群れは山に帰っていったのであるが、『豊前志』には、「…清麻呂卿を負いて宇佐宮に詣で、猪は八面山

八面山は心の山

の麓に入りぬ。故、其処に社を建て、猪山八幡宮を称すと云へり…」と書かれている。この猪山八幡宮は上田口の猪川谷の東側の山並みの奥にあったもので、現在は社殿はないが、社殿跡とされるところには「八幡神社」と書かれた見事な宝塔が立ち、寛永年間と元禄年間の石灯籠も残されている。また参道途中の鳥居の額にははつきりと「猪山」の文字も読み取れる。

和気清麻呂は、道鏡失脚後は再び都に呼び戻され、平安遷都など政治の世界で力を発揮することになる。和気清麻呂を祀る京都の「護王神社」には、清麻呂を助けたあの猪が「狛猪」としてその社前に、今もその物語を伝えている。

今に伝わる「片袖伝説」



宇佐神宮 本殿

中津市大字加来の黒水地区にある「拝香八幡宮」に伝わる「畧縁起」によると、「加来にて黒豆を奉る。お悦びのあまりこの地を黒豆と名付

け、御衣を留め御帰洛せば、居民「拝香八幡宮」と尊崇奉ると言う」とある。ここからこの地区の名前を「黒水」と表記するようになり、戴いた狩衣の片袖を「拝香八幡宮」という雅やかな名前の神社として尊ぶようになったという。清麻呂公から戴いた片袖は今も大切にお守りされている。

◆巨石の山 八面山

八面山の頂上部や山腹に大きな石が多いことはここに登った人は誰でも気づく。箭山神社の横の「犬石・鷹石」、神社北側の巨石群、八幡大菩薩と法蓮聖人の物語りの舞台の「和与石」、そしてこの「箭山権現石舞台」である。

かつてこの地方が大旱魃に襲われたとき、雨を望む村人はまず箭山神社に祈願した。そしてさらに箭山神社のある大嶽峯を望むこの大石を舞台にして「雨乞いの神楽」を奉納したという。村人の真剣な祈りと願いを込めた神楽の舞は天に通じいつも雨はたつぷりと降り、村は五穀豊穰に恵まれたとされている。

この巨大な石の周囲は五七・三メートル、石舞台の面の面積は約二百五十平方メートルもある。畳を百五十枚以上敷け、この上に人が立つと一千人以上が立てるといふ。いわゆる石舞台としては、日本一の大きさ・広さである。



石舞台



箭山神社

わたしたちが八面山を見るとき、このようになつかしく嬉しく感じることができるとはなぜでしょうか。八面山をいつも見つけってきたこと、八面山に登り八面山のなかで生きた体験をしたこと、八面山をいつも語り続けたこと、八面山はいつか、八面山はいつかわたしたちの心の中に生き続けているのです。